

この本の特色と活用法

『四科のまとめ』は、『予習シリーズ・4年上』から『予習シリーズ・6年上』までの学習、つまり、中学入試に必要とされる基本単元の学習終了後、6年夏休みから入試までの〈総復習〉期間に使用する教材です。中学入試に必要とされる基本単元のエッセンスを一冊に〈まとめ〉ました。〈総復習〉に活用し、確かな基礎力を培ってください。

本書の特色

本書は、①文章読解編と②言語要素編とに分かれています。

① 文章読解編——読み方・解き方についての〈読む〉問題集——

- (1) 第一章 読解の基礎……文種ごとに読み方の基本を復習します。
- (2) 第二章 実戦読解マニュアル……文章読解問題の基本中の基本、その文章全体の理解にかかわる内容にふれる大切な問いを中心に、読み方・解き方のポイントを解説します。
- (3) 標語で覚える〈読み方・解き方〉……『予習シリーズ』で何回も学んだ「学習課題」の内容を標語化しました。暗記しましょう。
- (4) 大切な言葉、大切な内容が一目でわかる……その文章の内容を理解するうえで重要な語句や表現、問題を解くうえで注意したい部分などが、赤や青で印刷されています。
- (5) 文章読解編は〈読む〉問題集……大切な部分は赤や青で教えてくれるし、問いのすぐ後に**考え方**が書いてあるし——そうです。『四科のまとめ・国語』文章読解編は解くことが目的ではなく、読み方・解き方の手順を学んでもらう〈読む〉問題集です。

② 言語要素編——厳選された「知識」のチェックリスト——

- (1) レベルA・Bは受験生必修……入試問題を出題頻度に応じて3レベルに分けました。AⅡ基本、BⅡ発展——ここまでは受験生必修。レベルCは、その単元について一歩踏み込んだ学習が求められる学校を受験する場合に活用してください。
- (2) 短時間での集中・反復学習のペースメーカー……いずれの単元も学習内容を10〜30項目に分割、「目標所要時間」が示されているので、計画的に学習が進められます。

本書の活用法

① 文章読解編……(1)〈読み方・解き方〉の標語を何度か唱え、覚える。

↓(2)約一五〇〇字の文章を集中して読む。↓(3)**チェックテスト**の問題を読む。↓(4)①自力で答えを出す。②**考え方**を読みながら答えを出す、③**考え方**を読み、さらに解答・解説を読む——いずれの学習法でもかまいませんが、とにかく〈読み方・解き方〉の手順を理解することが目的です。記述問題は、やはり自分なりの解答を書き、解答と比較検討するのがよいでしょう。

② 言語要素編……反復学習によって知識の定着を図る必要のある

分野です。×だった問題は、小問番号に印をつけ、時間をおいて解き直し、知識の定着度を繰り返し返し点検しましょう。

なお、別冊の解答用紙があります。解答用紙にきちんと答えを記入し、×のみ大きくチェックし、自分の弱点が一目でわかる学習を積み重ねることが大切です。

学習計画の立て方

1 文章読解編の学習計画

一回分が、文章約一五〇〇字、問いが二、三問ですから、問題を自力で解き、その後「考え方」や「解答・解説」を読んで、自分の解答の検討・修正を行う、という最も時間のかかる学習法を選んだとしても、一回分30分〜40分が所要時間の目安になります。七月〜八月にかけて、全三十一回分を一巡、ていねいに「読む」ことをお勧めします。

そのうえで、九月以降、『予習シリーズ』や志望校の過去問題の学習と並行して、「標語」や「考え方」の読み方・解き方の手順の部分を読み返し、いろいろな読解問題を解くときに使える「手法」を確認する作業を進めるとよいでしょう。とにかく「読む」問題集です。

2 言語要素編の学習計画

反復学習による知識の定着と、その定着度のチェックを必要とする分野です。入試までに最低三回は反復学習しましょう。

約120ページありますから、たとえば一日一ページ、15分〜30分の学習でも一巡するのに約四か月——これがおおよその目安です。

1 7月〜9月

第1ラウンド 知識の総点検が課題です。できる問題とできない問題、特に×をはつきりさせます。

自分の弱点・欠点をはつきりさせることが、次の課題を決定するのにつながりますから、確かな作業学習が必要です。レベルA・Bは必修です。

7月	第一章 文法の知識
8月	第二章 かなと漢字の知識 ・ 第三章 熟語の知識

9月 第四章 語句の知識 ・ 第五章 文学作品の知識

第2ラウンド

2 10月〜11月

心に、反復学習による知識の定着作業を進めます。また、×が集中した単元は、「大きな穴」なので、時間をかけて補強に努めましょう。たとえば、「文法の知識」のように、ルールや理屈を理解しなければならない分野が苦手だという受験生も、あせらず時間をかけて理解を深めるように努めましょう。

10月	第一章・3単語の学習(2) ・ 第二章・2(4)同音異字・同音異義語
11月	第三章・3四字の熟語 ・ 第四章・1慣用句

第3ラウンド

3 12月〜1月

弱点補強は進んだか、どの単元に關しても基本レベルなら正答率80%以上で答えられるか、志望校の出題傾向に対応した補強学習は万全か——確かな知識を確実に定着させる最終チェックの段階です。

※ 第五章 文学作品の知識の2「おぼえておきたい短歌」、3「おぼえておきたい俳句」は、入試までの期間に「読書」をするように二、三回繰り返し読むことで定着を図りましょう。

全期間にわたって、入試問題、『予習シリーズ』の言語要素問題、『ことばの練習帳』、『漢字の学習・6年下』第3章「単元別問題集」などで「実戦」的なチェックをしながら弱点を発見し、チェック・リスト型教材である『四科のまとめ』によって知識の整理・補強を図り、再び「実戦」的なチェックをする、という往復によって「実戦力」を高めていく学習法が効果的です。

目次 四科のまとめ 国語

●文章読解編

第一章 読解の基礎

1	文の役割	8
2	接続語の働き	10
3	指示語の働き	12
4	説明文・論説文(1) 形式段落を読む	14
5	説明文・論説文(2) 要旨	16
6	物語・小説(1) 場面を読む	18
7	物語・小説(2) 言動と心情①	20
8	物語・小説(3) 言動と心情②	22
9	物語・小説(4) 主題を読む	24
10	随筆文(1) 経験と感想	26
11	随筆文(2) 経験と意見	28
12	表現技法	30
13	詩	32
14	短歌	34
15	俳句	36
	付録 暦の知識	38

第二章 実戦読解マニュアル

1	□ をうめる(1) 細部文脈を推理する①	40
2	□ をうめる(2) 細部文脈を推理する②	42
3	□ をうめる(3) 細部文脈を推理する③	44
4	「……とは、どういうことですか？」(1) 定義・同義・対義	46
5	「……とは、どういうことですか？」(2) 具体と抽象	48
6	「……とは、どういうことですか？」(3) 比喩	50
7	「……とは、どういう気持ちですか？」(1) 言動と心情①	52
8	「……とは、どういう気持ちですか？」(2) 言動と心情②	54
9	「……とは、どういう気持ちですか？」(3) 情景描写	56
10	「……のは、なぜですか？」(1) 判断基準をつかめ	58
11	「……のは、なぜですか？」(2) 事実を示す	60
12	「……のは、なぜですか？」(3) 心の動きを追え	62
13	「……のは、なぜですか？」(4) 経験の重さ	64
14	「作者は、どういうことが言いたかったのですか？」(1) 主題①	66
15	「作者は、どういうことが言いたかったのですか？」(2) 主題②	68
16	「筆者は、どういうことが言いたかったのですか？」要旨	70

● 言語要素編

第一章 文法の知識

1 文節の役割・文節の関係	74
2 単語の学習(1) 品詞	82
3 単語の学習(2) 意味と用法	90
4 敬語	97
5 文章符号と原稿用紙の使い方 手紙文の知識	100

第二章 かなと漢字の知識

1 かなと漢字の知識	102
(1) 五十音図・ひらがな・カタカナの筆順	102
(2) かなづかい	102
(3) 送りがな	103
(4) 国語辞典の使い方	104
(5) 漢字の成り立ち	105
(6) 漢字の部首・画数・筆順	105
2 漢字の音訓	107
(1) 熟語の読み方	107
(2) 同字異音(音読みが二つ以上ある漢字)	107
(3) 同字異訓(訓読みが二つ以上ある漢字)	109
(4) 同音異字・同音異義語	111
(5) 同訓異字	113

(6) 特別な読み方の言葉(付表の語)	115
(7) 難しい読み方の言葉	116
(8) 漢和辞典の使い方	117

第三章 熟語の知識

1 熟語の組み立て	118
2 三字の熟語	120
3 四字の熟語	121
4 対義語・類義語	128

第四章 語句の知識

1 慣用句	130
2 ことわざ	140
3 故事成語	152
4 語句の意味・用法	155

第五章 文学作品の知識

1 文学作品	166
2 おぼえておきたい短歌	172
3 おぼえておきたい俳句	177
解答	188

文章読解編

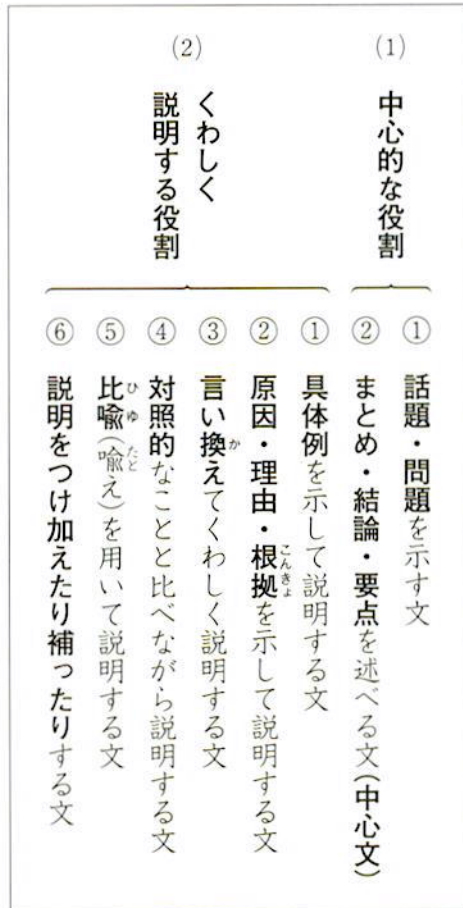
四科のまとめ
玉 五語

読解の基礎
文の役割

↓4年上①・5年上③

文の役割を考えながら読む

説明的文章を組み立てている一つ一つの文には、次のような役割があります。



要点||形式段落のはじめや終わりに中心文



このような形式段落内でのそれぞれの文の役割と関係を考えることで、形式段落ごとの要点を読み取ることができます。

チェックテスト ①

問 次の文章を三つの部分に分けると、第二の部分はどこからどこまでですか。①②⑦の文の番号で答えなさい。

① ある種類の生物がほろびるとか絶滅するとかいうのは、その種類に属する個体が一つ残らず消えうせることである。② 有名なのはキョウリュウである。③ あの巨体で、地上をわがもの顔にのし歩いていたと思われる動物がどうして絶滅したかは、興味のつきない問題である。④ キョウリュウは、ある日とつ然にほろび去ったのではない。いし、十年や二十年のうちにすべてが死に絶えたわけでもない。⑤ おそらくは、数百年、数千年、いや、それ以上の年月の間にしだいに数が減り、ついに消えうせたのであろう。⑥ 生物の絶滅というのは、ふつう、このように起きる。⑦ 繁栄の絶頂にあるうちに、滅亡の危機がじわりじわりと、何世代にもわたってしのび寄ってくるものなのだろう。

(日高敏隆「人類はほろびるか」より)

考え方

話題・問題を示す文、まとめ・結論・要点を述べる文など中心的な役割を果たす文と、具体例や原因・理由などを示してくわしく説明する役割を果たす文とに、各文を分類してみましよう。

また、その文の話題を示す「主語」に注目することも大切です。「生物」の絶滅について述べている部分と、具体例としてとりあげられている「キョウリュウ」について述べている部分とに分けられます。

チェックテスト ②

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①②は、段落番号。

① 植物はほかの生き物に食べられないように、物理的、化学的な防御戦略を持っている。植物の多くの部分は、食べられては困るのであるが、⁽¹⁾唯一食べられるために作られている器官がある。果実、正確にいうと果肉である。植物は動けないので、繁殖のためには風や水の力を借りるか、鳥や哺乳類のような大型動物によって、種子をほかの土地へ運搬してもらわねばならない。そのため、⁽²⁾種子をほかの土地へ運搬して芳香を放つようにしたり、赤や黄色といった目立つような色をつけたのである。

② ① 甘くなくとも、また果肉が少なくても種子を呑み込んでもらえるなら、植物は種子を包むだけの小さな果実しか作らなかつたであろう。② コストがかかるからである。③ 「コスト」とは、繁殖のために、直接役立たない出費である。④ つまり、果肉を作らなくてもよいなら、その分を種子の生産にまわせるわけである。⑤ しかし、種子散布者をめぐって、同種あるいは他種の植物の間で競争が起こる。⑥ 種子散布者である動物にとつてより魅力的な果実を作った植物個体は、より多くの子孫を残す。⑦ こうして種子散布者である動物の好みに合うような果実が進化した。

(西田利貞「動物の『食』に学ぶ」より)

問一 — 線①「唯一食べられるために作られている器官」とありますが、なぜこのような「器官」が作られたのですか。理由がわかる一文を①段落中からさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

考え方

— 線①の「器官」＝「果実」「果肉」が作られたのは、なぜか。

「植物は動けないので、繁殖のためには「大型動物(に食べられること)によって、種子をほかの土地へ運搬してもらわねばならない。そのため」に「果実に「甘い味をつけ」たり「芳香を放つようにしたり」「目立つような色をつけ」たりしたと説明しています。

問二 — 線②「直接役立たない出費」とありますが、なぜこのような「出費」をかけるのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 果実を食べる動物の好みに合うようにするため。
- イ 果肉を動物に食べられないようにするため。
- ウ 果肉を作らず、より多くの種子を生産するため。
- エ 果実を食べる動物の繁殖を助けるため。

考え方

②段落①文から、「種子散布者」である大型動物に「種子を呑み込んでもらうために、果実に「甘い味をつけ」たり、「芳香を放つようにしたり」「目立つような色をつけ」たりしたことがわかります。言い換えれば、⑦文にあるように、「種子散布者である動物の好みに合うような果実」を作ること、植物は「より多くの子孫を残す」としたのです。

問三 ②段落で筆者が言いたかったことをまとめるとき、注目すべき三つの文を番号で答えなさい。

考え方

なぜ植物は「繁殖のために直接役立たない出費」をしてまで果肉を作るのか——種子散布者としての動物をひきつけるため。結論は⑦、その理由づけとして⑤⑥。⑤文のはじめにある「しかし」の後に、筆者の言いたいことが書かれています。

文章読解編

第一章 読解の基礎

1 文の役割

チェックテスト ① (P.8)

問 ②③⑤

チェックテスト ② (P.9)

問一 植物は動け。(4行め)

問二 ア

選択肢の検討

イ ①段落の3～6行めで、「果肉」Ⅱ「唯一食べられない」に作られている器官であると説明し、それは「植物は動けないので、繁殖のために」「大型動物によって、種子をほかの土地へ運搬してもらわねばならない」からだと言明しています。大型動物に食べてもらうため、果肉を食べるとともに「種子を呑み込んでもらう」ために「甘い味」や「芳香」「目立つような色」など「直接役立たない出費」を植物はしているのですから、「果肉を動物に食べられないようにする」は×。

ウ ④文で、「果肉を作らなくてもよいなら」と仮定していますが、実際には、果肉を作っています。この選択肢は、仮定を事実のように表現しているだけです。

エ 大型動物に果肉とともに種子を食べてもらうのは、植物自身の繁殖のため。

問三 ⑤⑥⑦

2 接続語の働き

チェックテスト ① (P.11)

(A群・B群の順) 1 キ・ク 2 オ・セ 3 イ・ケ

4 エ・ス 5 ア・サ 6 カ・コ 7 ウ・シ

チェックテスト ② (P.11)

問 1 エ 2 ア 3 ウ 4 イ

3 指示語の働き

チェックテスト ① (P.12)

問一 遠い祖先から代々、遺伝の法則によって受けついできたもの(だから)。(3行め)

問二 自分の牙をくに変えよう(変えようと)。(4・5行め)

問三 ライオンやフクロウの狩り。(7行め)

チェックテスト ② (P.13)

問一 時間

問二 時間を買っていること。(9・10行め)

4 説明文・論説文 (1) 形式段落を読む

チェックテスト (P.14)

問一 ① イ ② 美林

問二 「環境」と(30行め)

問三 例 美林は人の手によって育てられ、保護されてきたということ。

5 説明文・論説文 (2)

——要旨——

チェックテスト (P.16)

問一 ⑤・⑧

問二 ⑥・⑦

問三 例 ことばにはあまり頼らないで、心と心のふれあいを大切に

する日本人はコミュニケーションが下手なわけではなく、むしろ上手になるための基本的な態度を身につけている。

6 物語・小説 (1)

——場面を読む——

チェックテスト (P.18)

問一 ア↓オ→エ↓イ↓ウ↓カ

問二 例 それまで心の底におさえていた、ころを守ってくれるという期待を裏切った父に対する怒り。

7 物語・小説 (2)

——言動と心情①——

チェックテスト (P.20)

問一 ① a イ ② b ウ ③ c ウ

問二 ぼく……例 危険なことや暴力的なことをきらう、おく病で消極的な性格。

まもる……例 むてっぼうなどころもあるが、物事を楽観的に考えるのんきな性格。

圭造……例 事態を冷静にとらえる落ち着きがあり、強気で立ち向かう積極的な性格。

ヒント

……線①(ぼく)、②(まもる)、③(圭造)に注目し、性格を表

す言葉に言い換えていきます。

8 物語・小説 (3)

——言動と心情②——

チェックテスト (P.22)

問 例 だれも手助けしてくれないことに不満を感じ、腹立たしい気

持ちになっただが、ここまでやったのだから父たちの手を借りず自分で解決しようと気をとりなした。そして、自分の力で解決することができ、大きな達成感と解放感を感じ、満足している。

9 物語・小説 (4)

——主題を読む——

チェックテスト (P.24)

問一 例 幼友達の権太が、気持ちのあたたかい親切な少年であることを思い出し、改めて権太を信らいし、友情を感じたこと。

問二 例 叱られても正しいと思ったことをすべきだという権太の言葉で、ただ叱られまいとしてきた自分のまちがいに耕作は気づいたから。

問三 イ (問二の考え方参照)

10 随筆文 (1)

——経験と感想——

チェックテスト (P.26)

問一 第二：当時は毎夏(15行め) 第三：夏の終わり(44行め)

問二 私には、小(11行め)

問三 例 祖父母がなくなっから長い年月が経過したこと。

問四 イ

選択肢の検討

ア 「……別れのつらさやせつなさは、大人になってはじめて理解できる」という内容は、筆者自身が高校生、大学生と成長するとともに「これが最後かも、と思う」祖母の気持ちを共感的に理解した、という内容(21～30行め)と対応しますが、文章全体では、筆者自身が親として「これが最後、という思い」(11行め)をいなく立場になり、そのような心情が小学生のわが子には理解されなかったという経験との関連がポイントとなるので×。

ウ 「平凡だがおだやかな人生を送りたい」という思いは、文章中で述べられてはいません。

エ 「これが最後かも、と思うような別れ」(24・25行め)、「これが見納めになるかも」(28行め)、「健康な祖父を見るのはこれが最後だった」(42・43行め)——これらの経験に結びつく内容が選択肢中に一切ありません。

11 随筆文 (2)

——経験と意見——

チェックテスト (P.28)

問一 **例** 現在の日本の社会では、個性をのばすこと、時代の変化に

素早く対応すること、金を儲けることを善とする価値観が一般的だから。

問二 ① **例** 個性の発揮も目指さず、新しいものへの適応も考えず、

都会になど目もくれず、金銭にふり回されないう幸福感を手に入れる生き方を自分の子供が選んでないがいけないか、と考える余裕を親なら持ちたいものだということ。

② この世には(40行め)

12 表現技法

チェックテスト (P.30)

- A ケ B イ C キ D ア E カ F エ
G ク H ウ I オ

13 詩

チェックテスト ① (P.32)

- A オ B イ C キ D ア E エ F カ
G ウ

チェックテスト ② (P.33)

問一 **例** 自分があいたいのがだれなのか、なになのか、あえるのはいつなのか、わがわからず、困りはて、心細い気持ちになっっている作者自身。

問二 **例** 作者が愛し、心を通わせることのできる人。

14 短歌

チェックテスト ① (P.34)

- 1 ア 2 イ 3 ア 4 イ 5 イ 6 シ
7 ケ 8 ウ 9 オ 10 サ 11 シ 12 カ
13 エ 14 オ 15 サ 16 ケ 17 ウ 18 コ
19 ケ 20 キ

チェックテスト ② (P.35)

問一 A・F

問二 A イ B エ C エ D ア E オ

- 問三 (1) F オ (2) G オ (3) B・C (4) D (5) F

15 俳句

チェックテスト① (P.36)

- 1 ア 2 イ 3 ア 4 エ 5 エ 6 コ
7 サ 8 オ 9 オ 10 キ 11 カ 12 カ
13 カ 14 オ

チェックテスト② (P.37)

- 問一 A 五月雨・夏 B 初時雨・冬 C 若葉・夏
D すずき・秋 E 麦秋・夏 F 雪解け・春
問二 1 F 2 C 3 E

〈付録〉 暦の知識

チェックテスト① (P.38)

- 問一 1 ア 2 イ 3 ア 4 ウ 5 イ
6 エ 7 イ 8 ア 9 ア
問二 (1) やよい (2) さつき (3) しわす

- 問三 A 立春 B 春分 C 立夏 D 夏至 E 立秋
F 秋分 G 立冬 H 冬至 I 大寒

チェックテスト② (P.39)

- 5 ↓ 3 ↓ 1 ↓ 4 ↓ 7 ↓ 2 ↓ 8 ↓ 6 ↓ 10 ↓ 9

ヒント 季語・季節(現行太陽暦での時期と補足説明)

- 1…卒業・春(三月下旬) 2…星祭・秋(星祭Ⅱ七夕、太陽暦では、七月

七日) 3…雑祭・春(三月三日) 4…吹流し・夏(吹(き)流し)は、

こいのぼりなど、中が空で風に吹きなびくもの。五月五日端午の節句に飾りとしてたてる。「海かけて」は、「海に向かつて」 5…門松・新年(正月)

6…名月・秋(中秋の名月) 中秋Ⅱ太陰暦八月十五日、十五夜↓太陽暦九月) 7…五月雨・夏(六月〜七月の梅雨) 8…二百十日・秋

(立春から数えて二百十日めの日。九月一日、二日頃。二百二十日Ⅱ立春から数えて二百二十日めの日。二百十日とともに台風が来ることが多い。)

9…年の暮・冬(十二月も押しつまった頃) 10…千歳飴・冬(十一月十五日の七五三の祝いの時に縁起物として売られる飴)

第二章 実戦読解マニユアル

1 をうめる (1) 細部文脈を推理する①

チェックテスト (P.40)

- 問一 A オ B ア C エ D ウ E イ
問二 1 ウ 2 ア 3 エ 4 イ 5 オ
問三 イ
問四 子供化 (30・31行め)

2 をうめる (2) 細部文脈を推理する②

チェックテスト (P.42)

- 問一 1 ア 2 イ 3 ア 4 ア 5 ア
問二 エ
問三 A キ B ア C オ D ウ E イ
F エ G カ

言語要素編



第一章
1 文法の知識
文節の役割・文節の関係

4年下⑥⑦⑧・5年上①②③④⑤年下①
6年上①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

① レベルA [文・文節・単語] (↓シリーズ5年上P.6)

次の文章の [1] ~ [6] にあてはまる言葉を後の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。
(目標所要時間 5分~10分)

例 どろぼう！ 早く 走れよ。

桜の 花が 美しく 咲いた。
右の例のように、一つのまとまった意味内容を言い表したひとつづきの言葉を [1] といいまます。 [1] を文字で表すときは、その終わりに「。」 [2] をつけて示すのがふつうです。

[1] は、ふつういくつかの [3] からできています。 [3] とは、 [1] を意味のうえからも発音のうえからも不自然にならない範囲で、できるだけ小さく区切ったときの一区切りの言葉のことです。 [3] と [3] の切れ目には、次のように「ネ」や「ヨ」や「サ」などをに入れて読むことができます。

例 桜の 花が 美しく 咲いた。
桜の 花が 美しく 咲いた。

向こうに 見える 高い 山が 北アルプスです。

文の組み立てや、言葉の係り受けを考えるとときは、この [3] を単位(ひとつのまとまり)に考えます。

[3] をさらに細かく分けて、それ以上分けると意味がなくなるか、言葉としての働きをはたさなくなるかするとところまで区切った

ときの最も小さい言葉の単位を [4] といいまます。

例 桜の 花が 美しく 咲いた。
桜の 花が 美しく 咲いた。

向こうに 見える 高い 山が 北アルプスです。

[4] は、「桜」「花」「美しく」「咲く」のようにそれだけで [3] になることができ、 [3] の先頭にきて、あるまとまった意味をもっている [5] と、「の」「が」「た」「に」「です」のようにそれだけでは [3] になることができず、 [3] の先頭にくることはなく、 [5] の後についてはじめて意味や働きをもつ [6] とに大別することができまます。 [5]、 [6] という言葉を使って [3] を言い表すと、 [3] = [5] (+ [6]) となります。 [5] は、 [6] なしに、それだけで一つの [3] になることもあります。また、一つの [3] の中に、二語以上の [6] が含まれることはありますが、 [5] は、一つの [3] 中に一語だけです。 [3] についての基本原則としてしっかり覚えておきましょう。

《語群》

ア 読点	イ 自立語	ウ 単文	エ 文節
オ 述語	カ 文章	キ 段落	ク 句点
ケ 単語	コ 文	サ 主語	シ 付属語
ス 修飾語	セ 用言	ソ 独立語	タ 体言

② **レベルA** **文節に分ける** (↓シリーズ5年上P.6・7参照)

次の各文に/を入れて文節に分けなさい。(目標所要時間 7分)

- 1 ぼくはきのう国語の勉強を三時間もしました。(目標所要時間 7分)
- 2 夏休みになったら、父の田舎へ行く予定です。
- 3 ぼくは体がとてもじょうぶなので、つらい仕事にも耐えられると思います。
- 4 母熊は岩の横にすわりこみ死んだように動かなかった。
- 5 桜の花びらがはらはらとまるで雪のように散っている。
- 6 この地方では十一月の下旬から雪が降るらしい。
- 7 峠に着くころには空は晴れあがり、雪をいただく南アルプスの連山が見えてきた。

③ **レベルB** **文節の役割** (↓シリーズ5年上P.7・8参照)

次の各文中の——線部の文節は、アⅡ主語、イⅡ述語、ウⅡ修飾語、エⅡ接続語、オⅡ独立語、のいずれにあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。(目標所要時間 5分~10分)

- 1 ① 二月一日、② その③ 日は④ 入学試験の⑤ 日だ。
- 2 ① ぼくだってみんなと② いっしょに③ 行きたいよ。
- 3 ① まだ② だれも③ そのことは④ 知らない。
- 4 ① 四谷君、その本を② 取ってくれないか。
- 5 君か、① あるいは② ぼくが③ 行くべきだと④ 思う。
- 6 ① 散歩には② ポチでも③ 連れていこうかな。

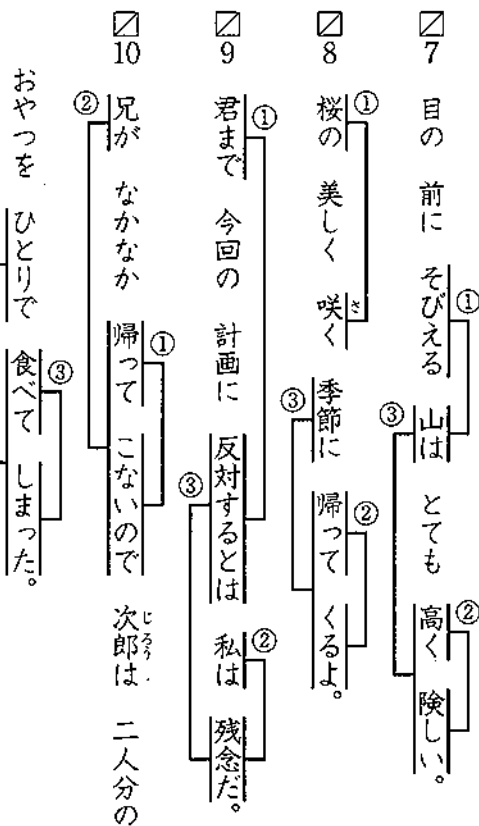
- 7 ① 今日ほどとも② つかれたから③ ぼくは④ 先に寝るよ。
- 8 ① 山② また③ 山をこえて、④ 兵士たちは⑤ 前進を⑥ つづけた。
- 9 ① なんと、雪ばかりか② 激しい③ 風さえ④ 吹き出した。
- 10 ① グラウンドには② 練習している③ 選手の④ 姿は⑤ まったく⑥ なか

- ⑦ ① 校旗だけが② さびしく③ ひるがえっていた。

④ **レベルB** **文節と文節との関係** (↓シリーズ5年上P.8~12参照)

次の各文中の——線部の各文節は、アⅡ主語・述語の関係、イⅡ修飾・被修飾の関係、ウⅡ対等(並立)の関係、エⅡ補助・被補助の関係、のどれにあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。(目標所要時間 5分~10分)

- 1 ① その② 新刊の本は③ とても④ おもしろかった。
- 2 ① 幼い② 子供が③ 人混みの中で④ 泣いていた。
- 3 ① 君の② 実験は③ おそらく④ 成功するだろう。
- 4 ① 君には② ぼくの③ 苦しい④ 立場は⑤ わかってもらえると⑥ 思う。
- 5 ① 太郎も② 次郎も③ 顔を④ 真っ赤にして⑤ 怒っていた。
- 6 ① この② 本は③ おもしろくないので④ 読むのが⑤ 苦痛である。



5 レベルB

文節と文節との関係 (↓シリーズ5年上P.8~12参照)

次の1~5の各文の——線と——線で示された文節の関係と同じ関係のものを後のA~Eから選び、記号で答えなさい。また、その関係の説明として適当なものをA~Eから選び、記号で答えなさい。

(目標所要時間 5分~10分)

- 1 きれいなバラが たくさん 咲いた。
- 2 赤い 大きな 花が 咲いて いる。
- 3 泣いて いる あの 女の子は だれ だろう。
- 4 もっと ゆっくり 話 した。
- 5 ある 寒い 夜 彼は 出発 した。

ア 彼の 言う こと は 理解 できない。

イ 早く 宿題 を かたづけ て しま おう。

ウ あの 人 は とても 朗 らかで 寛 大だ。

エ これは とても むずかしい 問題 だ。

オ じっくり 考 えて 行 動しよう。

- A 主語・述語の関係
- B 修飾・被修飾の関係で、体言を修飾(連体修飾)
- C 修飾・被修飾の関係で、用言を修飾(連用修飾)
- D 対等(並立)の関係
- E 補助・被補助の関係

6 レベルA

主語・述語関係 (↓シリーズ5年上P.8・9参照)

次の各文の主語と述語を、それぞれ記号で答えなさい。各文の主語・述語がない場合は、Xで答えなさい。(目標所要時間 5分~7分)

- 1 ぼく は 毎朝 六時 には 起 きます。
- 2 木 の 上 で セミ が た くさん 鳴 いている。
- 3 ぼく と いっしょ に 君 も な めと こ山 へ 行 くのか。
- 4 人間 に と っつて 正直 こそ いちばん 大 事だ。
- 5 ここ に 置 いておいた 私の 荷物 は ど ころに？
- 6 た しかに 太郎 です、昨日 旅 に 出 たのは。
- 7 広い 校庭 には 一 年生が 十 人ばかり 遊 んでいた。
- 8 風邪 を ひ いたので 一日 中 家 に い ました。

言語要素編

第一章 文法の知識

1 文節の役割・文節の関係

① レベルA [文・文節・単語] (P.74)

- 1 コ 2 ク 3 エ 4 ケ 5 イ 6 シ

② レベルA [文節に分ける] (P.75)

- 1 ぼくは／きのう／国語の／勉強を／三時間も／しました。
- 2 夏休みに／なったら、／父の／田舎へ／行く／予定です。
- 3 ぼくは／体が／とても／じょうぶなので、／つらい／仕事にも／耐えられると／思います。
- 4 母熊は／岩の／横に／すわりこみ／死んだように／動かなかつた。
- 5 桜の／花びらが／はらはらと／まるで／雪のように／散って／いる。
- 6 この／地方では／十一月の／下旬から／雪が／降るらしい。
- 7 峠に／着く／ころには／空は／晴れあがり、／雪を／いただく／南アルプスの／連山が／見えて／きた。

解説 ①で確認したように、**文節||自立語(十付属語)** **||一文節に||**

自立語——これが基本です。

- 4の「すわりこみ(すわりこむ)」、7の「晴れあがり(晴れあがる)」は、二つ以上の単語が結合した複合語ですから「単語」としてあつかいま

③ レベルB [文節の役割] (P.75)

- | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 10 | ⑧イ | ②ウ | ③ア | ④ウ | ⑤イ | ⑥エ | ⑦ア |
| 9 | ①ウ | ②ウ | ③ア | ④ウ | ⑤イ | ⑥エ | ⑦ア |
| 8 | ①エ | ②ア | ③ウ | ④イ | | | |
| 7 | ①ウ | ②ウ | ③ア | ④イ | | | |
| 6 | ①ウ | ②ウ | ③イ | | | | |
| 5 | ①エ | ②イ | ③ウ | ④イ | | | |
| 4 | ①オ | ②イ | ③ウ | ④イ | | | |
| 3 | ①ウ | ②ア | ③ウ | ④イ | | | |
| 2 | ①ア | ②ウ | ③イ | | | | |
| 1 | ①オ | ②ウ | ③ア | ④ウ | ⑤イ | | |

す。
 ● 3「じょうぶ」なので、「4「死んだ」ように」、「5「雪の」ように」と、**ネ**や**サ**を間に入れて読めてしまいますが、「なので」のように「は」、それだけでは意味がわかりません。つまり、自立語ではありません。**文節||自立語(十付属語)** **||一文節に||自立語**の原則から、このような分け方はできません。

● 5「散っている」||散る+いる、7「見えてきた」||見える+きた(くる)、ですから**二文節**。**補助・被補助の関係**にある**二つ以上**の**文節**は、ひとまとめであつかいますが、**文節**としては**二つ以上**に分かれます。
 ● 6の「この」をはじめ、いわゆる「こそあど言葉(指示語)」は、何かを指し示しているのですから意味をもちます。つまり、**自立語**です。
 ● 7「着くころには」の「ころ(頃)」は、「だいたいの時。適当な時」という意味の名詞、つまり**自立語**です。

解説

まず、文全体の主語・述語関係を読み取ります。

主語・述語

関係の読み取り方 (↓シリーズ5年上P.8)

(1) 文節に分ける。

(2) 倒置・省略の有無を確かめる。

・倒置がある ↓ 普通の語順に直す。

・省略がある ↓ 前後関係などから推理し、補う。

(3) 文末の文節⇨述語を先に確定する。

(4) (3)で確定した述語に、意味のうえで結びつく主語を「何が・誰が」と考えながらさがす。(述語から主語へ)

● 4「取ってくれないか」、5「思う」、6「連れていこうかな」は、いずれも主語が省略されていますが、文全体の述語。7「今日が」「つかれた」? 「は」「が」など助詞から主語の文節を判断しないこと。

9「吹き出した」(述語) ↓ 「何が・誰が」 ↓ 「風が」、したがって③「風さえ」⇨主語。

● 1「二月一日」(提示)、4「四谷君」(呼びかけ)、9「なんと」(感動)などは、いずれも独立語。他に、「はい」「いいえ」などの「応答」も独立語です。

4 レベルB

文節と文節との関係 (P.75)

- | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 1 | ①イ | ②ア | 2 | ①エ | ②ア |
| 3 | ①ア | ②イ | 4 | ①イ | ②イ |
| 5 | ①ウ | ②エ | 6 | ①エ | ②エ |
| 7 | ①イ | ②ウ | 8 | ①ア | ②エ |
| 9 | ①ア | ②ア | | ③イ | |
| 10 | ①エ | ②ア | ③エ | ④イ | |

解説

「対等(並立)の関係」については、シリーズ5年上P.10、5年

下P.10、「補助・被補助の関係」については、シリーズ5年上P.11、5年下P.10参照。

● 4「君が」⇨「わかってもらえる」わけではありません。

● 5「太郎も 次郎も」⇨「次郎も 太郎も」、7「高く 険しい」⇨

「険しく 高い」⇨いずれも文節の順序を入れかえても内容が大きく変わることはありません。「対等(並立)の関係」を確認する方法です。

● 8「桜の」⇨「咲く」⇨「桜が」⇨「咲く」と言い換えられます。その文節が

主語であることを示す助詞の「の」⇨基本です。

● 9「反対する」⇨「何が・誰が」⇨「君が」、したがって「君まで」の文節は「反対する」の主語。

5 レベルB

文節と文節との関係 (P.76)

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | エ・B | 2 | ウ・D | 3 | イ・E |
| 4 | オ・C | 5 | ア・A | | |

解説

「体言」とは、単語のうち、自立語で活用がなく、主語になれるもの。品詞としては、名詞。また、「用言」とは、単語のうち、自立語で活用があり、述語になれるもの。品詞としては、動詞・形容詞・形容動詞。

● 2「赤い 大きな 花」⇨「大きな 赤い 花」、ウ「朗らかで 寛大

だ」⇨「寛大で 朗らかだ」⇨「対等(並立)の関係」です。

● ア「彼ノ一言」⇨「彼ガ一言」と言い換えられます。

6 レベルA

主語・述語関係 (P.76)

(主語・述語の順に)

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | ア・エ | 2 | ウ・オ | 3 | ウ・オ |
| 5 | エ・X | 6 | オ・イ | 7 | ウ・オ |
| | | | | 8 | X・オ |